

## 会 議 録

会議の名称	令和元年度（2019年度）第1回豊中市立図書館協議会		
開催日時	令和元年（2019年）7月10日（水）18時00分～20時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	☑・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	3人
公開しなかった理由			
出席者	委員	山本 恵信 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 山本 晃輔 藤井 新二	
	事務局	小野教育委員会事務局長 須藤岡町図書館長 西口庄内図書館長 川上千里図書館長 虎杖野畑図書館長 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長、伯井岡町図書館主査、大平岡町図書館主査	
	その他	欠席：尾崎委員 吉岡委員	
議題	1. 委員の紹介 2. 豊中市立図書館における高齢者サービスについて 3. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 令和元年度（2019年度）第1回図書館協議会 記録

日時：令和元年（2019年）7月10日（水）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：(敬称略)

出席者：山本(恵) 天瀬 松田 岸本(委員長) 瀬戸口 山本(晃)、藤井

欠席者：尾崎、吉岡

事務局：小野 須藤 虎杖 川上 西口 山根 永島 伯井 大平

資料確認

委員紹介

教育委員会事務局小野事務局長より挨拶

委員長及び委員長職務代理者の選任

### ●事務局

図書館条例第6条第2項で、協議会の委員長は委員が協議して選任することとなっている。同条第5項で委員長に事故ある時は、あらかじめその指定する委員がその職務を代理することになっている。まず委員長の選任を、次に委員長から同職務代理者を指名していただきたい。なお、委員長の任期は委員の任期によると定められており、令和3年6月30日までとなる。

委員より委員長に岸本委員を推薦

異議なし、一同拍手を持って承認

### ●委員長

図書館協議会では昨年度も皆様から活発なご議論をいただいた。今期もそうした議論が深まるよう引き続きよろしくお願ひいたします。余談だが、地域の活動で、植物が肥料をやりすぎて枯れてしまった。肥料を欲しいと思って根を伸ばしていかないと植物の力にはならない。図書館にしても人々が何かを求めたいという気持ちをどう喚起していくかというところが大切なのではないかと感じた。環境を整えると同時に、一人一人の人が図書館に行って何かを知りたいという気持ちを皆に持っていただけると、そうした図書館が豊中に育っていけばと思っている。委員長職務代理者は瀬戸口委員に願ひする。

### ●委員長

図書館協議会の運営方法について、豊中市では原則的に会議を公開し傍聴の定員は10人としている。定員を超えた場合は状況を見ながら私のほうで判断させていただくということによろしいか。傍聴の方にはアンケートをお願いしており、特に委員の皆様にお伝えすべき内容は報告させていただく。

平成30年度第4回図書館協議会議事録については、事前に送付されたものにご意見等は無かったので、概要として、発言者については個人名を掲載せず「委員」とのみ表記し公開することを了承いただきたい。

それでは議題2の豊中市立図書館における高齢者サービスについて、事務局から説明をお願いします。

### ●事務局

昨年度は中央図書館機能について様々なご意見をいただき意見書という形でまとめていただいたことお礼を申し上げます。今年度ご検討いただくテーマの説明に入る前に、これまで図書館協議会でご討議いただいた内容を「答申・提言一覧」という形で事前送付している。図書館サービス全体について多岐にわたり図書館協議会にてご討議いただき、意見をいただいていたことが見て取れる。図書館の施設計画・運営について、図書館システム、児童サービスや多文化サービス、子ども読書活動に関わるものなど、この協議会において、その折々に当時の委員の皆様のご知見をいただき、図書館サービスに反映させてきた。今までの答申や提言、意見書の一覧をご覧ください、現在図書館が抱えている様々な課題を踏まえた上で、新たなテーマについてのご討議に移っていただければと考えている。

事務局としては高齢化サービスをテーマに、高齢化が進み様々な課題が生じる中、現状のサービスを踏まえて今後どう進めていくかご審議をお願いしたいと考えている。事前資料送付時に趣旨をしっかりと説明できておらず申し訳ございませんでした。高齢者サービスについては、平成9年（1997年）に協議会より「高齢者サービスのあり方について」提言を頂いた経緯がある。当時の平均寿命は男性が76歳、高齢化率については平成2年（1990年）当時が8.6%、現在は豊中が25%を超えており、庄内地区の一部では既に30%を超えている。図書館利用では、登録者・利用者について当時の2～3倍に増えている状態である。提言から20年を経過し、社会状況や図書館を取り巻く環境も大きく変化中、図書館に求められる高齢者サービスについても新たな内容が加わってきている。あるいはすでに以前から取り組んでいる事業であっても、高齢者サービスの位置付けがされてきている。全国の図書館の先進的な取り組み、最近の図書館における高齢者サービスの事例を、一部ではあるが一覧で示した。懐かしい道具や写真を見て思い出を語り合う心理療法の一つ「回想法」を取り入れたものや、言葉に出す音読、豊中でも一部取り組んでいるが認知症に関連する講座等、多様な取り組みが全国の図書館で行われている。高齢者総数の増加と認知症の高齢者の急増ということもあり、地域包括ケアシステムなど社会で支援する新たな制度が構築され、提言をいただいた平成初頭の段階と状況が相当変わってきている。「年代別の登録者・貸出人数」（資料5）からも、図書館の利用に関しても高齢者の割合が増えている状況が見て取れる。

豊中市の図書館では、高齢者施設向けの団体貸出や、長寿安心課と連携し図書館を会場に認知症サポーター養成講座を開催するなど、高齢者に関わる取り組みを進めてきた。認知症の方が増える中、貸出での返却トラブルもあり、施設側からの管理が難しいという声を受け、高齢者施設向けに資料の無償譲渡を行う団体リサイクルを年1回庄内図書館で実施している。その他、市立豊中病院の認定看護師と連携した「医療健康情報レクチャー」を年3回分館も含めて実施し、高齢者の心のケアや認知症のテーマなどを取り上げている。一方で、高齢者への支援ではなく、高齢者自身が様々な市民協働事業や図書館を支える取り組みに参加する事例も増えている。庄内と野畑で活動中の図書館サポーターはおよそ半数が60歳以上となっている。

今後ますます高齢化率が上昇する中、図書館のありようも一定の変化を求められている。豊中の図書館の高齢者サービスをどういった方向に向けていったらいいのか、全体のサービスの中の位置付けを踏まえて、限られた資料費、人的資源をどのように振り向けていくかということも含めて、今年度と令和2年度の2年間かけてご審議いただきたいと考えている。

#### ●委員長

高齢者サービスも含めて、皆様の中で今の豊中の図書館のサービスの課題として考えることがあれば、ご発言をいただきながら進めていきたい。

#### ●委員

「含めて」というところが整理できていない状態だ。高齢者サービスを考えるのであれば、今高齢者の方がどんな課題を抱えているのか把握し直さなくてはいけない。例えば生活のことかもしれないし、経済的なこと、生きがい、高齢者に限定されるものではないが、そういった課題をまず的確に把握した上で積極的にアプローチをしていく姿勢が必要だ。その中で、いかに高齢者に図書館に来ていただけるか、高齢者の中に図書館のファン層をどう広げていくか、高齢者に限らず図書館にあまり興味のない方にどうやったら来ていただけるかを考えることが自ずと高齢者サービスのあり方のヒントになっていくと思う。図書館で出会った本がその人が抱える問題・課題の解決に繋がっていくきっかけになれば、図書館にとって大きな成果であり、本を通じて問題解決するというのは文化都市豊中にとって素晴らしい状況だと思う。どうやったら課題を抱えている方に本が届くのかを考えればよいと思う。「豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について」を見ると、「できてない」「必要である」が繰り返し出てくる。今現在どうなっているのかの検証から始めたらどうか。

#### ●委員長

答申・提言一覧を見ると、具体的なことについての議論は近年図書館協議会の中ではあまりされてなかったように思う。高齢者サービスを考えていくことは、具体的な図書館サービス全般についても考えることになる。それは高齢者だけに限らず、図書館に通底する課題として当然でてくるので、それらも含めて議論できればと考えている。

#### ●委員

学校教育に携わっている中で高齢者サービスというのは難しいテーマと感じている。小学校では地域で子ども教室や福祉委員会と連携した取組みをしている。核家族の中でおじいちゃんおばあちゃんと接する機会がない子どもたちが、折り紙教室や七夕の行事で、地域のお年寄りに来ていただき折り紙や七夕飾り作りを教えてもらう姿をほほえましく見ている。図書館サービスの中で、子どもたちと高齢者が世代を超えた形で接点を持てる、昔話を聞かせてもらうなど、交流ができることがあればいい。高齢者にとっても、孫以外の子どもたちと接することでいきいきとしている部分もある。

## ●委員長

図書館というのは公共施設の中でおそらく一番幅広い世代、乳幼児からお年寄りまで集まってくる施設で、強制されてではなくそれぞれ自分の意思で足を運んで来る。世代をつないでいく場として機能する側面があると思う。

## ●委員

多くの方は、高齢者というと仕事をしていなくて、どちらかと言うと暇な方を想定すると思う。私も一緒に、仕事はしているが、定年後に図書館を利用するようになった。時間があり、生活費はあるが娯楽に使うお金がない、でもまあ本が好きだ、という方が多分図書館に来ているのではないかと思う。私は千里図書館を利用しているが、図書館で寝ている高齢者も多く見かける。図書館の職員も迷惑と思っているのではないだろうか。本当に本が好きな高齢者は大切にしてほしいが、図書館を勘違いしている高齢者を甘やかさないでほしい、その点も是非考えていただけたらと思う。今利用している高齢者を大切にすればかりではなく、もっと学生が来るような図書館、逆に高齢者が自分は場違いだと思うくらいの図書館を作ったほうがいいのではないかと思う。

## ●委員長

植物が根を伸ばしていく話をしたが、周りにそうした養分がない、養分を吸収することの楽しさとか面白さがないと寝てしまう。図書館は一つの場で、その場に来た方々をどう刺激していくかも一つの課題と思う。他の利用者に迷惑をかける行為は図書館としてきちんと対処していく姿勢は当然求められる。図書館という場を楽しみに来る方々が、その図書館をもっといきいきと活用できるような働きかけや仕掛けを作ることが、高齢者サービスの中で求められてくる。迷惑な存在をありがたい存在に変えていくにはどうすればいいかを考えていく必要がある。

## ●委員

シニア向けでは60歳を過ぎたら映画が安くなるサービスなどがあるが、図書館で高齢者に「こういうことをしてあげますよ」というのは何か違う感じがする。元々図書館は無料で市民が誰もが行ける場所で、行くことに対してはハードルが低い。誰でも行くことができ特別扱いも必要ない。一方で高齢者にとって図書館はすごく大切な場所だと思う。寝ている人もいるかもしれないが、行く場所があるというのは大事なことだ。誰でも利用できて行きやすく、行く必要がある、自分も必要とされるような取組みが図書館であればいい。昔遊びを教えるとか音読など、自分にもできることがあって予防にもなるような仕掛けをたくさん作って、行きたい場所になることが大事かと思う。シニア向けのこんなサービスをやっていきますというのではなく、一日誰とも会話をしなかった方が図書館に行ってちょっと話ができるような、職員や利用者みんなの中にそういう意識を作ることがすごく大事と思った。限られた資源をどう活用するかという点で、機械化が進みフロアに人がいなくなると、ますます利用しにくい・行きにくい場所になる可能性がある。そこは人の力でなんとかするしかない。職員でなくても地域とのつながりや様々な世代のつながりでもいいので、そういう仕掛けも作っていく必要があると思う。

## ●委員長

大事にしなければいけないお年寄りというイメージではなく、1人の利用者として存在を捉え直し高齢者サービスを考えていくことが、図書館サービスの課題にもつながるように思う。今は非常に元気なお年寄りがたくさんいる。リタイアして会社での責任から解放された方々が、もう一度地域の中での責任や役割に気付いていく、一人ひとりが地域の中で自信や誇りを持って生きていける、そうした暮らしに対して図書館は何ができるか考えていく必要がある。

## ●委員

私は教育社会学の研究を専門にしている。社会学では調査のデータはフィールドワークか統計分析が基本となる。今回図書館協議会委員の委嘱を受け、庄内図書館で半日ぐらい座って過ごしてみて、この昼間に図書館を利用する方がこれほどいるのだと気が付いた。一方で確かに寝ている方もいて、それは大きな課題なのかもしれない。事務局からの説明でもあったが、認知症が図書館にとって一つの課題であり、認知症が突然ではなく徐々に進行することを考えれば、図書館の高齢者サービスはそういった方々も対象とするわけで、高齢者の方が図書館に来て、ゆっくり休み、時には寝てしまって、周りからなんやこのおっちゃんという風に見られながらも、図書館という場に来ることには意味があると考ええる。新聞コーナーが賑わっているというのは、ある意味で豊中の図書館が一つの場としての機能があると考えた。そうした方を芽吹かせていくことを考えるために、情報をいただければと感じている。それぞれの世代の方々にどういうニーズがあるのか、図書の利用数だけではなくどういった人たちが利用しているのか、図書館側がどういうニーズを把握しているのか等、議論のための情報があればと思う。岡町図書館の医療・健康情報コーナーには情報がたくさんある。認知症を予防したい方々に対する情報提供という図書館の表れだろうと思うが、たぶん認知症の方は利用しない。委員長が言うように芽吹かせるようなことを打って出るサービスを考えていくことが必要だろう。

## ●委員長

今日の資料5「年代別登録者数・貸出人数の推移」に加えて、事務局として、次の委員会に用意できるデータや情報はありますか。

## ●事務局

平成29年度実施の来館者アンケートが活用できる。

## ●委員長

前回の図書館外部評価の時の資料ですね。現在実施している高齢者サービスの具体的な内容等もまとめて事前に送付していただきたい。他に必要な情報はありますか。

## ●委員

図書館ごとに課題が違うのではないかと感じている。昨年豊中市と協力して子どもの居場所の調査をした。豊中の4地域をアンケートのデータから調査したが、地域ごとに随分

とカラーがある。おそらく図書館ごとにニーズや、やっていきたいことが違うのだろうと思う。その辺りも図書館ではどう捉えているのかを教えてください。

#### ●事務局

平成30年度の図書館活動統計が固まりつつある段階だ。南部と北部・中北部では利用の仕方が相当異なる。利用人数だけ見ると、庄内、高川、幸町は高齢者の利用が多い。貸出手続き確認装置のゲートを通過する人数で来館者数はカウントできるが、年齢は分からない。本を借りずに新聞を読むなどの滞在型の利用が、庄内、高川、幸町で圧倒的に多い。座席数にも差はあるが、地域ごとに課題や利用のされ方が違うので、そういった点も見えるよう資料としてご提示したい。

#### ●委員長

いくつかデータや情報をいただいて委員にも分析をお願いしたい。

#### ●委員

高齢者と言っても実際には幅があり状況も異なる。もう少し下の世代の成人も含めて考えていく必要があるだろう。以前の協議会で独身の単身者に対する図書館のアプローチについて議論があったが、利用者ごとの個別の状況も含めて柔軟に考えていくことが必要だ。世代間交流の必要は自分も感じている。高齢者にとってだけでなく利用がほとんどない中年世代や若者、学生も含めて、実際の世代交流の仕掛けが図書館でできればいい。居場所として図書館は重要と思う。趣味のランニングで毎週同じ場所で走ると、いつも20人くらい集まり、年齢も様々で70歳以上の人もいて、そこに行くとなにかいるという居場所になっている。居場所があって皆いきいきとしている。図書館を存分に使うのではなく、例えば図書館を将来使わなくなったとしても、社会の何らかのネットワークに繋いでいけるような仕掛けが図書館できるとよい。高齢者だけでなく下の世代も孤独になるような状況が社会的な問題としてある。何らかのつながりを図書館で築いていく可能性を、高齢者を中心として考えられたらと思う。

#### ●委員

いくつか議論のキーワードが出てきた。これらのキーワードを基に、豊中の図書館サービスのありようも含めた中で高齢者サービスの議論を進めていきたい。各委員の意見を聞いて自由に発言をお願いします。

#### ●委員

図書館では、高齢者の利用や居眠りで困っていることはないのか。

#### ●事務局

豊中の図書館は席数が少ないこともあり、利用したい時に席が空いてないという不便はおそらくある。図書館の良さでもあり一方でしんどさでもあるが、全ての人が特に用事がなくてもふらっと立ち寄って利用できる場所は私たちの強みでもあると思っている。年

代を超えて多様な人の集まる場所なので利用者同士の争いやトラブルなどはあるが、ある程度調整していく形にはなる。豊中市の姉妹都市サンマテオ市の図書館のツイッターに、ピクトグラムのような絵があがっていた。音楽を聴いたり、本を読んだり、パソコンをしたり、友達と会ったり、いろいろな絵がある中で、枠の中に何もしないで座っているだけのピクトグラムもあった。時間ができて自分の居場所ややることを求めて図書館に来る高齢者が増えている中、席数が足りないという現状ではあるが、自分の行く場所があることが健康につながり、健康寿命を長く保つことは健康保険適用の軽減となり、回りまわっては社会全体で良くなっているとも言える。図書館に行くことで健康になるとテレビでも取り上げていた。施設面、ハード面での不十分なところと来館者の折り合いをどうつけていくかが図書館としても課題と思っている。

### ●委員長

滋賀県は長寿県だが、要因の一つに「図書館の貸出が多い」というのが新聞の見出しに上がっていた。図書館の貸出が多い、それだけ皆が本を読んで好奇心が溢れている、というのが県が設置した委員会の報告のかなり大きな部分を占めていた。図書館は健康長寿の1つのバロメーターになるのではないか、という言い方もされていた。北欧の図書館ではずっと編み物をしている人もいる。図書館はいろいろなことができる場所という捉え方も可能だ。

### ●委員

居場所という観点からすると、いつも同じ時間に同じ席に座って同じことをしている高齢者をお見かけすることがある。「わたしの席」というのがどうやらあるのだろう。先進事例の八王子市立図書館の取組みで「シニア世代が自ら調べ学習」というのがある。これは調べ学習だが、図書館で発表の場があるといい。一生懸命に絵本を見て絵を描いている年配の方を見て、この人にもし発表の場が図書館で与えられたらと思うことがある。居場所からスタートして、どんどん活動を広げていく人もいるかもしれない。ずっと人と喋らないと言葉が出にくくなるが、歳を重ねていくと人と喋る機会が減ってくる。図書館に来て何らかの形で職員や利用者と喋ることが心の健康にもつながり、居場所という意味でも大切だと思う。

### ●委員長

資料5「年代別登録者数・貸出人数の推移」を見ると、70歳以上の登録者数の推移より、70歳以上の貸出人数の増加が極端に多くなっている。実際にカウンターでも70歳以上の利用は活発なのか。

### ●事務局

年代別の統計からも、高齢者の貸出利用は多いと考えている。実際のカウンターでも、やはり高齢者世代の方が一目見て多い印象だ。居場所にプラスできること、何か次にやることのヒントみたいなものを図書館で得ていただければ。豊中でも地域に出にくい男性向けに農作業をしながら地域の中で関係を作っていくような取組みもある。図書館にはチラ

シを含め情報もたくさん集まるので、いろいろなメニュー出しを考えていきたい。座って寝ているだけでなく、その方が何か気持ち的に元気になるような次の手がかりが図書館で得られたらと思う。委員の皆様のご意見を聞いて、そういう手助けも含めて図書館の高齢者サービスなのかと思った。

●委員長

先程フロアワークが非常に大切だという話があった。高齢者向けのサービスでは、フロアワークの中に今言ったような働きかけも含まれるか。

●委員

高齢者向けだけでなくフロアに職員はいたほうがいい。本だけあっても図書館ではない。自分自身図書館に関わるようになって、図書館員に顔見知りの人ができると行きやすくなった。声をかけようにも誰もいない、機械だけというのはしんどい。何でも聞けるフロアワークはシニアだけでなく皆にとって大切と思う。

●委員長

図書館は非常に世代の幅が広い公共施設で、もう一つ特徴的なのが、借りる時と返す時に必ず図書館の職員と対面しなくてはならない施設。ほとんどの人が本を借りる返す時に図書館の職員と対面してコミュニケーションが取れることは結構強みだと思う。人との関係は大切にしないといけない点だろう。

●委員

人と対面したくない人もいて自分の好きに借りられる自動貸出機や返却機がいい、子どもは機械を使ったほうが楽しいみたいというような声も聞くが、特に子どもや高齢者にとっても人と言葉を交わすことはとても大事だ。発話というか、誰とも喋らずに一日が終わる状況は認知症に繋がっていくと思う。

●委員長

自動貸出機の導入によってフロアワークにより力を入れることになる。自動貸出機が稼働している裏では職員がより一層フロアに出て行く努力が必要だ。

●委員

土日に千里図書館を利用するが、見ていると職員は忙しく余裕がない。サービスを自動化したら職員に余裕ができて、人の話が聞けるかというところではない。少なくとも土日の千里図書館は、貸出返却が自動になって職員の仕事が減っているから対面で話ができるという状況ではないと思う。

●委員長

私も図書館にいたから実感しているが、話し込むのではなく一言が大切だ。列ができて貸出でいっぱいいっぱいの日曜日の夕方に、本を借りてもらった時に一声掛けられるかどうか

かで、利用者が次来る時に表情が違ってくる。職員が機械になってはいけないということだ。

### ●委員

確かに図書館に来て新聞を読むだけで誰とも会話せずに帰ってしまったら、認知症が進みそうに思う。場という意味ではどういう手立てが考えられるだろうか。先日武蔵野市の武蔵野プレイスを見学した。地下3階にある子どものスペースは青少年以外は入れないようカーペットの色を変えている。入れないので周りから恐る恐る眺めると、笑い声もたくさん聞こえ、見守りのボランティアスタッフがいる。図書館だけがやるのではなくて他の方々を巻き込みながら見守る人たちがいて、そこで楽しそうに勉強し笑い声が起きているのを見て、図書館は静かで本を読む場所だと思っていたイメージが随分様変わりをしていると実感した。そうした意味で高齢者も来て新聞を読むだけではなくて、他の人と喋るような時間を持てるような場があれば、認知症予防になる、あるいは図書館の利用者の増加につながるのではないか。

社会関係のハブになることが大事だと先程委員からの意見もあった。ソーシャルキャピタル、社会関係資本というのがある。社会学では、経済資本（お金）、文化資本（文化）、社会関係資本という三種類で世の中を説明することがあるが、社会関係資本は目減りをしていない特徴があり使えば使うほど実は増えていく。経済資本は使えばなくなるか別のものに取り替えられるが、社会関係資本は使うほど厚みを増していく。社会関係資本を通じて健康を増進するとか、それを通じて学校教育を豊かにするといった取組みが世界的に進んでいて、図書館にも持ち込むアイデアがきっとあると思う。先駆的な事例があれば是非教えていただきたい。

### ●委員

ヨーロッパの図書館では社会関係資本の調査研究も活発だ。欧米の図書館では割と何をしてもいいという認識があり、居場所的などころとして図書館を提供することで人同士がつながっている。日本の場合は、昔の図書館のイメージは変わりつつあるが、欧米の図書館とも違う。日本は日本なりの切り口を見出していけないと、海外の事例を持ってくるだけではうまくいかないだろう。やはり豊中は豊中のやり方をアレンジしながらやっていく必要がある。委員の皆さんの意見を聞いて思ったが、人間には承認欲求があり、他人と会話することで自分を認めてもらっていると感じられる。図書館がいかにかそういった機能を作っていけるか。運動が得意な人もいれば苦手な人もいる、健康状態も様々ないろいろな状況の人を視野に入れつつ、居場所や何かにつながる別な機会を、日本的な切り口で見つけていく必要がある。

### ●委員長

豊中市の図書館サポーターの状況はどうなのか。

### ●事務局

図書館サポーターは、現在庄内図書館と野畑図書館で活動している。庄内では、年齢は

20代～70代までと幅広く半数が60代以上、本の修理やコーティング（ビニールカバーを掛ける）作業を月2回、3階の協働事業スペースでやっている。サポーターからは「楽しい！」との声をいただく。図書館の近くの人だけでなく、交通費は出ないがバスに乗って来る方もいる。自分のいる場所がありやることがある、役に立っている感覚がモチベーションになっているように思う。庄内での活動は割とにぎやかで、話をしながらいろいろな年代の人が集まって作業をしている。サポーターの1人は、いつも新聞を読みに来てよく利用している方だが、サポーターの活動には今まで全く関わっていなかった。職員が日ごろから声掛けをし、「今日は活動の日ですよ」と誘い「しゃあないなあ」みたいな言い方で本の修理やコーティングを少しやってもらうようになった。職員提案で年度末に感謝状を作成し1年間の感謝を伝えたところ大変喜んでいただけた。高齢者も含めて様々な年代の人が話をしながら活動する場所として、重要なモデルになっているのではないかと感じている。

### ●委員長

これから議論では、図書館サービスという範疇の中に、サポーターのような活動を含む高齢者と図書館との関わりを視野に入れた方がいいと考えていた。他にご意見は。

### ●委員

学校図書館には司書が配置されていて、子どもたちの読書活動に関わって良い動きをしているが、勤務時間の関係もあって本の修理ができずにたまってしまう。サポーターの方が学校にも来てもらえたらありがたいと思った。先日服部緑地公園に遠足に行った際、円形花壇のところに男性がたくさんいて何とはなしに集まっている姿を見かけた。女性は一人もいなかったのも、特に男性は居場所が要るのかと感じた。図書館がそういった場になればと思うし、図書館が居場所を見つける場になるというのがすごくいいと思った。

### ●委員長

確かに女性のほうが居場所がある人多そうな印象だ。いくつか出た意見やキーワードを含めて、高齢者サービスに関連したデータと情報を事務局でまとめて、次回の議論の材料として送付していただきたい。その他の案件について、事務局から報告をお願いします。

### ●事務局

#### ・（仮称）中央図書館基本構想について（報告）

昨年度の協議会において、意見書という形で図書館の機能をまとめていただいた。この意見書を踏まえて、中央図書館機能の構築および中央図書館を核とした施設配置や図書館全体の再編に向けた指針となる（仮称）中央図書館基本構想を令和2年度中に策定予定。今年度は、公募型プロポーザルで委託先事業者を選定し、図書館総合研究所が優先交渉権者となっている。今後のスケジュールは、9月に無作為抽出の市民3,000人に郵送アンケート調査を行うほか、各図書館で来館者アンケートを実施する。また庁内の関係部局による（仮称）中央図書館基本構想策定検討委員会を9月に立ち上げ、年度内2回開催し、今

年度に骨子という形でまとめる予定。令和2年度は、市民参加のワークショップやパブリックコメントなどを経て構想としてまとめる。図書館協議会においても随時状況について報告をさせていただく。

「知的探究合戦めざせ！図書館の達人」（当日資料）は、公共図書館を活用して調べる体験をする取組み。4人までのグループで小学校・中学校に分かれて、調べるテーマを当日くじ引きで決定し、図書館の検索機やインターネットを使って資料や情報を集め、分かったことをまとめて発表し「図書館の達人」を選ぶ。7月26日に岡町・庄内・千里・野畑図書館、28日の日曜日は高川図書館、中学生の部は7月29日に岡町図書館で行う。達人に選ばれたグループは（小学生は決勝戦で最終優勝した1グループ）は、12月25日の子ども読書活動フォーラムで発表・表彰という流れになる。

・「豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）」について（報告）

豊中市立図書館グランドデザインは平成26（2014年）3月に策定し、令和5年（2023年）までにめざす姿を実現するために設定した4つの目標と28のプランからなる。28のプランを優先順位の高いものから進めることとしており、その実施状況を確認することでグランドデザインの進捗状況を管理している。報告書は「28のプラン進行管理報告書」と「4つの目標進行管理報告書」の2部構成となっている。「28のプラン進行管理報告書」は職員がグランドデザインの進行管理を行う基礎資料。毎年9月に発行する「豊中市の図書館活動」には、優先順位の高いプランを抜き出した「4つの目標進行管理報告書」を掲載している。「4つの目標進行管理報告書」は網羅的なものでなく、平成30年度の優先的な取組みの達成状況を確認し、令和元年度の方向性を決める材料となっている。

（仮称）中央図書館基本構想を踏まえて、グランドデザインについても今年度中に見直しを行う予定。

・「視覚障害者等読書環境の整備推進に関する法律」について情報提供

視覚障害者や発達障害の方の読書環境を整えるための法律、通称「読書バリアフリー法」が令和元年6月21日に制定された。点字図書や、音声の読み上げに対応した電子書籍の導入といった読書環境の整備について、国や地方自治体が責任を持って進めるよう定めている。具体的な基本計画はこれからとなるが、自治体の整備状況について今後の動向を注視したい。

●委員

（仮称）中央図書館基本構想について教えていただきたい。

●事務局

岡町図書館は老朽化していて将来建て替える必要がある。岡町図書館は3272㎡だが、中央図書館にするには狭い。どこに建てるかは決まっていないが、豊中市として（仮称）中央図書館基本構想の策定が市の基本政策に入っている。今後、場所や面積を想定しながら、施設の再編も含めてどういった図書館にするのか来年度中に構想を策定する。構想は2年間で策定するが、実際に中央図書館を建てるのは少し先のことになる。令和4年に

(仮称)南部コラボセンターが建つ予定で、庄内図書館がその中に入ることになるが、基本的にはその先の話として想定している。中央図書館が必要であることと、今後土地が空いた時に動き出せるようにどういった図書館にするのか、あわせて再編も求められている状況もあり、この2年間で計画を立てていくという形になる。

### ●委員長

昨年度までの2年間をかけて図書館協議会で豊中市の中央図書館にはどういったものが求められるかという議論を進め、まとめとして3月に意見書を提出した。一般的に中央図書館という場合に、岡町図書館は様々な機能に制約があり十分な力が発揮できない現状はあると思う。中心的な図書館を作るということは、結果として今ある地域の図書館がより充実したサービスができるよう支えていく役割が非常に大切だ。中央図書館ありきではなく、庄内であり千里であり、最も地域に近いところでやってきた個別の図書館がより良くなっていくための中央図書館ということ、きちんと押さえておかなければならないという議論を重ねてきた。今後、基本的な計画が令和2年までにまとめられる。それを元に、図書館協議会としても必要な意見等を述べていけるよう、議論を進めてもらえたらと思う。

### ●事務局

#### ・野畑図書館のセルフ式予約棚導入について（報告）

セルフ化についてご意見をいただいた後で申し上げにくいですが、6月1日に野畑図書館に予約資料受取コーナーを設置した。先に導入した千里・服部・東豊中図書館と同じく利用者自身で棚から予約の本を取り出して借りるシステムとなる。IC機器の導入により業務の効率化を図り、職員がカウンターから出てフロアワークを通じて利用者と直接対話しながら、利用案内やリファレンスに繋げる機会を増やすことを目的としている。職員からは利用者の動向をより注視するようになったと聞いている。野畑図書館ではできるだけ利用案内の担当の職員を配置し継続的に丁寧な案内をしていく予定。

### ●委員長

予約していた本をカウンターで申し出て借りる今までの形から、その特定の棚から自分で取り出して借りられるようになった。予約照会機で確認し、棚番号から自分で取り出して借りられる。

### ●事務局

#### ・東豊中図書館の空調工事に伴う休館について（報告）

空調更新のため、東豊中図書館が令和元年9月2日（月）から年末まで休館となる。天井を剥がしての大掛かりな工事が必要となり、4ヶ月間の長期にわたる休館となってしまう。利用者の利便性に配慮し、休館中も返却ポストは通常通り使用できるようにする。図書館システム機器のあるカウンター及び事務室の工事を先に1ヶ月くらいで行い、その後10月頃からは予約資料の受取りだけは1階入口付近で行う予定にしている。予約受取り可能となる具体的な日程については、決まり次第お知らせしていく。ご不便をおかけしま

すがよろしくお願いたします。

●委員

セルフ式予約棚について、導入を進め職員がどんどん他の仕事できるようになるとよいが、自分自身も含め悪い利用例になっているようにも感じる。千里図書館では入口の横に予約資料受取コーナーがあり、普段は予約してそこに取りに行行って借りている。と、もうそのまま帰ってしまう。私だけでなく割と多くの人がそうだ。入って、借りて、棚を見ないで満足して帰っていく。これは良くないのではないか、もっと書棚をワッと歩けるような図書館がほしいと委員応募の時も提案した。サービスとしては逆かもしれないが、セルフ式予約棚を一番奥にしたほうがいいかもしれない。便利なだけではなく、図書館の使い方をユーザーにも感化してほしいという気がする。

●委員長

今の発言は、確かに大きな課題と私も思う。図書館全体の貸出の中で、予約の割合がおよそ全国平均で20%ぐらいかと思うが、都市部の図書館で50%を超えているところがかかなりある。インターネット予約が普及し、ネットで予約して自分の予約した本だけ借りて帰る利用者が非常に多くなっている。札幌中央図書館は年間39万冊ぐらいの貸出があるが、中央図書館は不便なところにある。地下鉄の駅に近い大通りのカウンターでは予約本の受け渡しと返却だけで、図書館サービスは全く無い。予約本の貸出だけで39万冊、本館と同じだけある。図書館で書架を見ていろいろなものに出会う楽しみが全く無い中で、図書館の特定の部分だけを利用している。長い目で見たら非常にもったいない話だが、利便性の側面だけが広がっている状況に目を向ける必要がある。一方で、図書館側の魅力の無さからそういった利用が増えているとしたら、図書館として受け止めなくてははいけない。

●委員

予約棚が高齢者には親切ではない、低いところの本が取りにくいという話をよく聞く。年齢に応じて置く棚を変える工夫はできないだろうか。腰をかがめて取るのが辛いという話を聞いたので。

●委員長

高齢者サービスの一つの課題であろう。次回もう少し具体的な議論につなげたい。事務局ではデータの整理や情報提供をお願いします。次回の予定は。

●事務局

図書館協議会は年間3回の開催を予定している。時期は2回目が10月か11月頃、3回目が2月か3月頃を予定している。

●委員長

令和元年度第1回豊中市図書館協議会を閉会する。